芽室町地域公共交通活性化協議会における新モビリティサービス推進事業の概要

補助対象事業の名称

「日本版MaaS推進・支援事業」

公共交通の概況・問題点

芽室町市街地においてはコミュニティバスを運行しているが、町内農村部への移動には対応できていない。町内には民間タクシー事業者がサービスを提供しているが、移動距離が長いため高コストで利用者が限定的になる傾向にある。行政としても、スクールバスの混乗や、高齢者のタクシー運賃助成などに取り組んでいるが、定期的な通院や通学などの日常利用までに至っていない。
当該地域の上美生地区ではNPO法人が主体となり民間での自家用有償運送による取組みが実施されているところである。

事業の目的・必要性

昨年度実施した「みんなのコミ☆タク」共生・支援型芽室MaaS事業で得た知見を活かし、地域の特性(過疎農山村地域・高齢化・希薄な公共交通・クレジットカード保有率の低さ・タクシー事業者の収益悪化)を考慮し、都会とは違うMaaSで事業のVersion UPを図っていく。さらには昨年度把握できた移動の目的(通院・買い物・食事等)に加え、市街地での行事や娯楽など、移動の目的化させていくことで移動機会を創出し、健康で活気あるまちづくりに取り組む。

効果測定を行うための目標

・登録ユーザー50 人
・アクティブユーザー数（指標　10人／月）
・利用満足度10 段階評価で8 以上
・実施稼働回数100 回以上

事業の実施概要

予約制乗合タクシーの定期便である「めむろコミ☆タク」を実施。昨年度得られた知見を活かし、地域の特性に考慮したMaaSで事業のバージョンアップを図る。

◆実証期間

2022年11月1日～2023年2月28日

◆事業概要

自宅から目的地までドアtoドアで送迎する、
予約制乗合タクシーの定期便。
1日4便（8往復）運行。
運行日は地区①は毎日、地区②は週2日運行。
運行事業者は往路は自家用有償旅客運送、
復路は民間タクシー事業者が担当。

◆運行事業者

民間タクシー事業者　　1者
自家用有償旅客運送事業者2者

◆決裁方法

現金、JAバンク引き落とし、Mカード（地域通貨）

◆買物代行サービス

往路車内でメニュー表から希望商品を注文いただくと
運転手が商品を購入し、復路で利用者とともに送迎。
６店舗28品を取り扱い。

◆公共交通機関との連携

JRや民間バス会社の時刻との連携。

◆実証地区

①芽室町内上美生地区（前回実施地区）
・地区住民約492人（うち75歳以上70人）
・芽室町市街地からの距離約１６～２２km
・NPO法人が自家用有償旅客運送を実施。

②芽室町内新生・北伏古地区（今回追加地区）
・地区住民526人（うち75歳以上120人）
・芽室町市街地からの距離約４～８km

③芽室町内芽室太・毛根・関山地区（今回追加地区）
・地区住民289人（うち75歳以上64人）
・芽室町市街地からの距離約４～８km

◆運賃

①芽室町内上美生地区
（片道）1,000円　（月額）15,000円

②芽室町内新生・北伏古地区
新生　：（片道）300円　（月額）3,000円
北伏古：（片道）500円　（月額）5,000円

③芽室町内芽室太・毛根・関山地区
芽室太　：（片道）300円　（月額）3,000円
毛根・関山：（片道）500円　（月額）5,000円

プロセス・創意工夫

【プロセス】

7月～	正式協議（運行事業者（緑・白）、システム事業者）
	自家用有償旅客運送ドライバー増員の検討・交渉
8月～	システム事業者＋運行事業者＋町による協議
	自家用有償旅客運送候補団体の新規登録準備
	エリア・運賃の詳細検討
	対象地区行政区長への挨拶
	支払決済事業者（Mカード、JAバンク）協議
	町議会委員会への説明
9月～	地域公共交通活性化協議会　合意
	帯広運輸支局への申請準備
10月～	買物代行店舗・商品選定
	民生委員への周知
	対象地区老友会への参加・周知
	タクシー助成対象者への案内
	新規および既存登録者宅訪問による利用説明
	運行リハーサル
10月12日	町広報誌チラシ折り込み
11月　1日	運行開始
11月12日	町広報誌チラシ折り込み
12月10日	町広報誌に交通特集掲載
1月～	対象地区老友会への参加・周知
1月19日	利用促進イベント開催

【創意工夫】

・運行エリアの拡大
・自家用有償旅客運送団体の追加
・支払方法の追加
・農村部全域での交通アンケートの実施
・移動機会創出のためのイベント開催
・タクシー利用者へのコミタクのご案内

事業の結果概要

【事業結果】

①運行関係
　・登録人数…52人（本事業開始前より＋22人）
　・乗車実績…のべ35人
　・サブスク契約…0件
②運行以外
　・WEB予約…1件
　・キャッシュレス利用…10件
　・買物代行利用…0件
　・タブレット（スマホ）貸出…2人
※結果はすべて1月19日時点

【特徴的な事象】

・往路のみの利用
・酪農家庭のお子さんの冬休み期間の利用
・新地区では、「コミタク」より「タクシー助成」の利用が多い

【見えてきた課題】

・ドライバーの安定的確保
・乗合率を上げる工夫（利用者の増加や乗合割引など）
・自家用有償旅客運送の負担感（費用・保険・車両など）
・市街地交通施策とのバランス（サービス水準、予算面など）
・緊急度の高い人が少なく、定期的な利用が見込みづらい。
・隣接する帯広市への移動需要への対応
・復路乗車を促す工夫（運行ダイヤや待合場所など）
・地域住民への意識啓発
・システムやコールセンターの費用対効果が悪い。

事業実施の適切性

・実証運行実施地域を拡大し、新たな自家用有償運送の担い手として1団体追加し、予定通り実証を開始している。

・運行ダイヤ（基準時間）については、JRや十勝バスとの乗り継ぎを意識した時間を設定している。

・キャッシュレス化については、地域通貨として流通している「Mカード」での支払いや口座引落を設定し、対応している。

・共通の配車システムを利用し、自家用有償運送と流しのタクシー（車両を固定しない）で運行できる体制を整えた。

目標・効果の達成状況

1月19日時点における事業実績

・登録ユーザー…指標50人に対して52人

・アクティブユーザー数…指標10人に対して18人

・実施稼働回数…指標…100回以上に対して13回

・利用満足度…運行終了後にアンケートを実施して確認予定

今後の改善点

◆移動機会創出のイベントの実施

・現役ドライバーでタクシー利用に抵抗のある登録者
・芽室町市街地に出かける機会が少ない
→移動機会創出のためイベントを実施し、利用促進を図る

◆農村部全域の交通ニーズの把握

・登録者や利用者へのアンケートの実施
・農村部全域での交通アンケートの実施
→農村部住民の移動ニーズや外出実態を把握し、必要な交通サービスや運賃を検討する。

◆隣接する帯広市への移動の検討
◆自家用有償旅客運送の登録支援の検討
◆タクシー助成の乗合化の検討

地方運輸局等における二次評価結果

- 自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- 期間中徐々に利用者は増加しているものの、エリアによっては利用が無く（自己評価時点）、目標とする指標に対し低調な状況となっており、より一層の周知及び利用促進が必要と考える。
- 今回の課題を整理・検証し、利用者ニーズを的確に把握・対応したうえで、実装されることを期待する。